



第1回放課後子ども教室研修会

目的：放課後子ども教室推進事業の先進的な実施状況を見学したり、成果や現状について協議したりするなど、実践を学ぶための研修会を行い、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質の向上を図る。

実施日：平成28年8月3日（水）

場所：国見町観月台文化センター

参加者：59名

実践参観 「国見っ子わんぱく広場」

活動1 ピザ作り

ピザを生地から作り、段ボール箱にアルミ箔を貼った手作り窯で焼いた。熱源は炭を使用。毎年恒例の活動で、児童の楽しみになっているとのこと。



活動2 わんぱくまつり

町の伝統文化の伝承と世代間交流を合わせた活動として、公民館女性教室のみなさんから「国見音頭」の指導を受けた。その後「模擬縁日」として、工夫を凝らした屋台の一つ一つを存分に楽しんでいた。

- ・駄菓子釣り
- ・ストラックアウト
- ・ポップコーン
- ・ヨーヨーづくり
- ・わりばし鉄砲射的
- ・景品の絵付けコーナー



講話 「地域で創る魅力ある放課後子ども教室」

東京家政大学 人文学部 教育福祉学科 専任講師 宮地 孝宜 氏

1 子どもたちを取り巻く状況

「格差への対応」が必要となっている。親の経済格差が子どもの学力・体力・栄養格差につながっている。特に、「放課後の世界」は差が顕著である。明石要一氏は「放課後は自由経済」と表現し、夏は海、冬はスキー、休日は家族みんなで出かけることができる子どもとできない子どもがいる。また、塾・お稽古通い、通信教育、豊かな体験ができる子どもとできない子どもがいると、家庭間の格差を指摘している。



2 放課後子ども教室の意義

放課後子ども教室は、どの家庭、どの地域の子どもにも豊かな放課後の世界を提供することができる。文部科学省の調査によれば、近年、個人主義が浸透してきている（他人の関与を歓迎しない）、地域が安全でなくなり、子どもを他人と交流させることに対する抵抗が増しているなどの理由で、地域の教育力が低下している。そんな中、子どもと地域住民のナナメの関係大切にしていきたい。コミュニケーションがとれている地域としてサザエさんを例としてあげる。

- ① 波平が遅くまで公園で遊んでいるワカメの友だちホリカワ君を叱る
- ② ワカメは心配する
- ③ ホリカワ君のお母さんが磯野家にお礼の電話
- ④ マスオが波平をほめる、波平「昔は普通の事だったがなあ・・・」



生涯学習審議会では、より充実した生涯学習社会を形成するため、「あらゆる層の人々が学習の成果をボランティア活動の中で生かすことができる環境の整備」を進めることを提言している。また中央教育審議会では、学んだ内容、人生の経験などあらゆる「知」を活かす場が必要だとしている。こうした内容が具現化できる場の一つが放課後子ども教室である。



3 放課後子ども教室の課題

一つ目の課題として、プログラムのマンネリ化があげられる。学習プログラムによって、出席する高学年児童が増減する。学習プログラムを活性化していくためには、地域の学習資源を掘り起こしていく必要がある。

二つ目の課題として支援者の固定化があげられる。ボランティアに関心はあるが実際に活動する人が少ないのが現状である。人が「集まる」組織の条件として、所属するのに金銭的な負担がない、所属していると得るものが多いなどがあげられる。目指す組織方向性を明確にするために、タグラインを考えるとよい。また組織を活性化していくために、田尾雅夫氏の非営利組織の経営管理の考え方が参考になる。以下5点について留意したい。



- ① ビジョン（理念）・ミッション（組織の達成目標）をメンバーで共有する。
- ② メンバーのモチベーション（動機づけ）を強化する。
- ③ メンバーの役割関係を確認にし、組織として対応できるようにする。
- ④ メンバー同士のコミュニケーションを活性化させる。
- ⑤ 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を安定的に確保できるようにする。

ボランティアのモチベーション（動機づけ）を高めるためには、内発的動機づけ、活動そのものに内在する楽しさを味わわせたい。



4 地域で支え合う関係へ

子どもたちには、見守られ、大切にされ、励まされる体験を多くさせたい。そうすることで子どもたち自身が安心してのびのびと活動できるだけでなく、他者に対して手をさしのべることができるようになる。「だいじょうぶ」と言い合える、みんなに優しくなれる地域社会が実現する。「だいじょうぶ だいじょうぶ」（いとうひろし作・絵、講談社）を朗読。



5 親として、私のお願い

放課後子ども教室では、親や教員には気がつきにくい、子どもの良いところをみつけて誉めてほしい。そうすることで、子どもが自分を好きになる。時には、子どもをやさしく叱ってほしい。社会のルールを学ぶことになる。そして子どもといっしょに笑ってください。

6 放課後子ども教室関係者による支え合いを！

県北教育事務所で作成している『放課後子ども教室だより』は宝の山。ぜひ参考にしてほしい。

【参加者からの声】

- ・子どもたちに対する、職員をはじめスタッフの皆さんの指導の熱心さに感心しました。国見音頭の継承を大切にしていることが分かりました。段ボールピザ窯もすごいアイデアですし、風船とお菓子を釣り上げる遊びは大変参考になりました。早速何かの行事の時に実践してみようと思いました。
- ・ボランティアさんに支えていただいていることを日々実感しているので、ボランティアさんのモチベーションについてや、人が集まる満足度の高い組織作りについて意識していくことが大切であると学ぶことができました。もっともっと活躍の場を広げていくことを目指したいです。